第11回
産婦人科動向意識調査・タスクシフト調査
中間報告

日本産科婦人科学会
医療改革委員会

プロジェクトメンバー

小野健太郎 （聖路加国際病院産婦人科）
重見大介 （東京大学大学院）
柴田綾子 （淀川キリスト教病院）
園田正樹 （東京大学産婦人科）
溝口博重 （株式会社AMI&I）
鈴木真 （亀田総合病院）
医療改革委員会

（1）従来の動向意識調査
（2）勤務環境の現状調査（新）
（3）タスクシフト現状調査（新）

大都市圏と地方に大別して「見える化」

＊大都市圏：東京、大阪、愛知、神奈川、福岡
　地方：それ以外

なぜ「見える化」？

・勤務環境の課題は
各施設で様々に異なる

・現在実施できている
工夫も異なる状況



⇨課題や状況に応じた対策案

日本産科婦人科学会　産婦人科動向　意識調査

調査結果

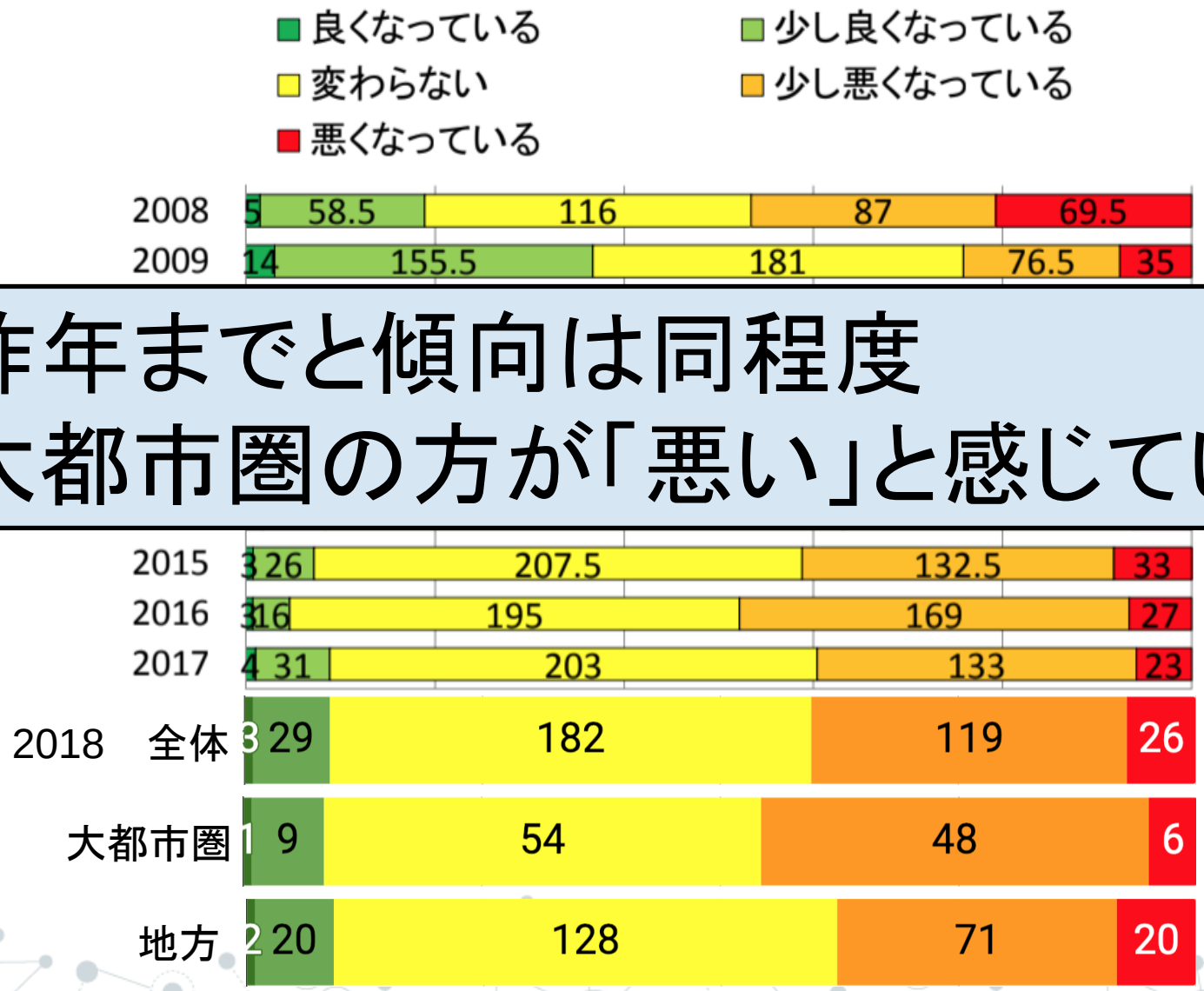
年度	調査対象施設数（専攻医指導施設）	回答数	回答率
2008	756	332	44%
2009	742	462	62%
2010	744	458	62%
2011	726	456	62%
2012	723	349	48%
2013	666	442	66%
2014	667	406	61%
2015	636	403	63%
2016	627	414	66%
2017	610	394	65%

2018	動向・勤務環境調査	978	456	47%
	タスクシフト	978	427	44%

＊中間報告ではGoogle formによる回答のみ報告（約10%がFAX/メール）
＊調査期間は2018年12月11日～2019年1月4日
＊今回の調査対象は産婦人科専門研修施設

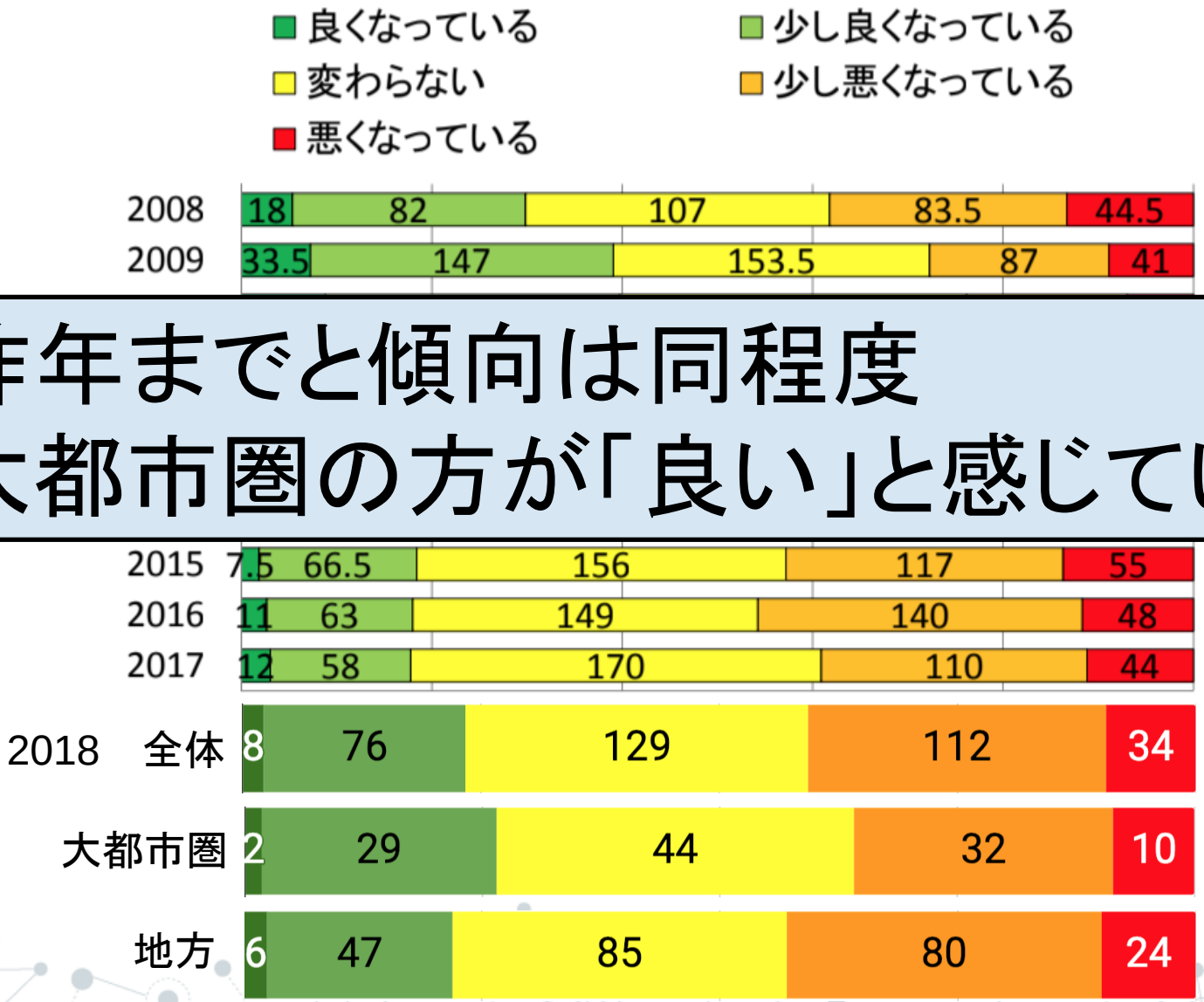
1.
動向意識調査結果

日本産科婦人科学会　産婦人科動向　意識調査
「1年前と比較して、全体としての産婦人科の状況」



- 昨年までと傾向は同程度
- 大都市圏の方が「悪い」と感じている？

日本産科婦人科学会　産婦人科動向　意識調査
「1年前と比較して、自施設産婦人科の状況」

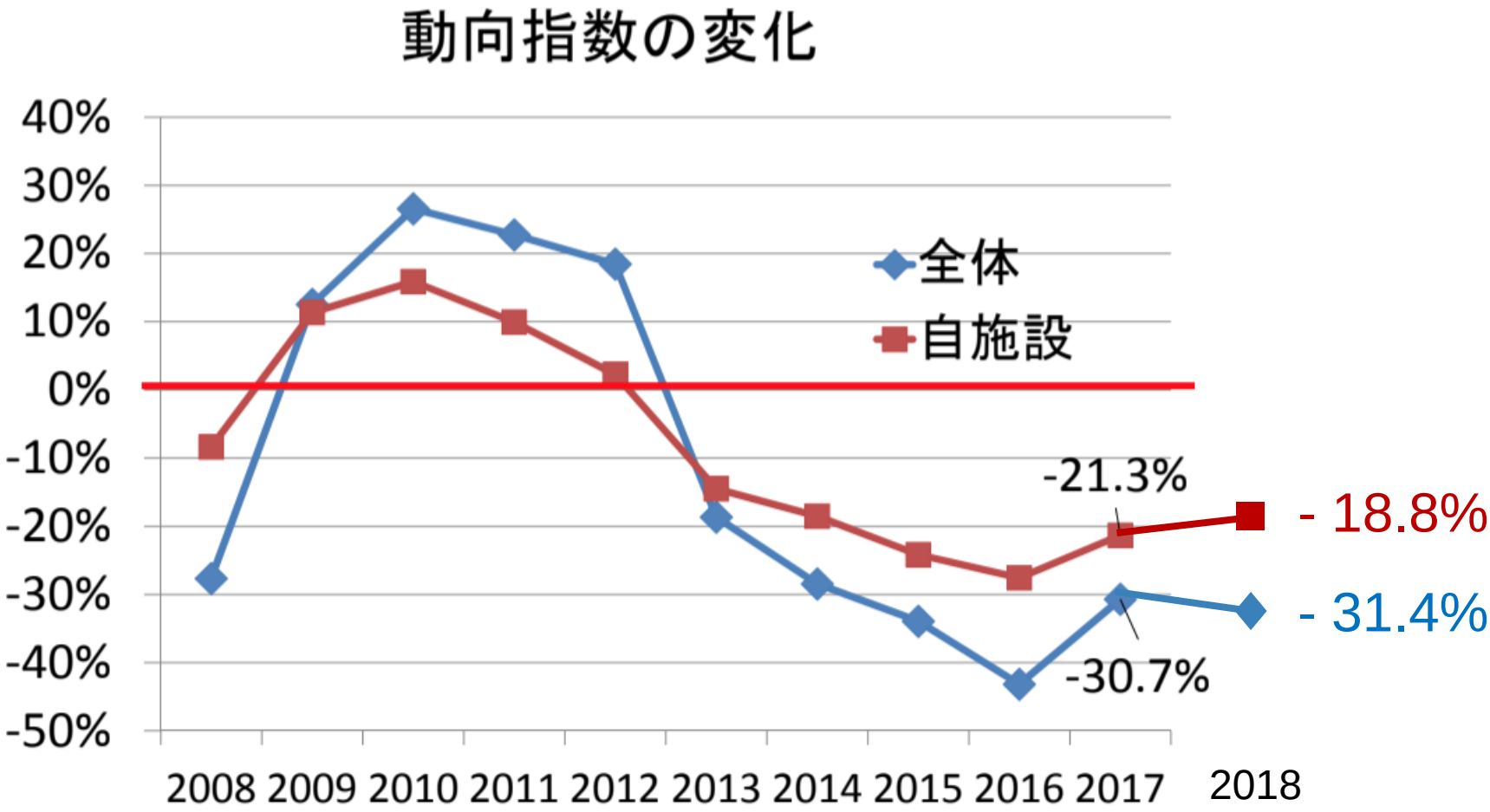


- 昨年までと傾向は同程度
- 大都市圏の方が「良い」と感じている？

動向指数の計算

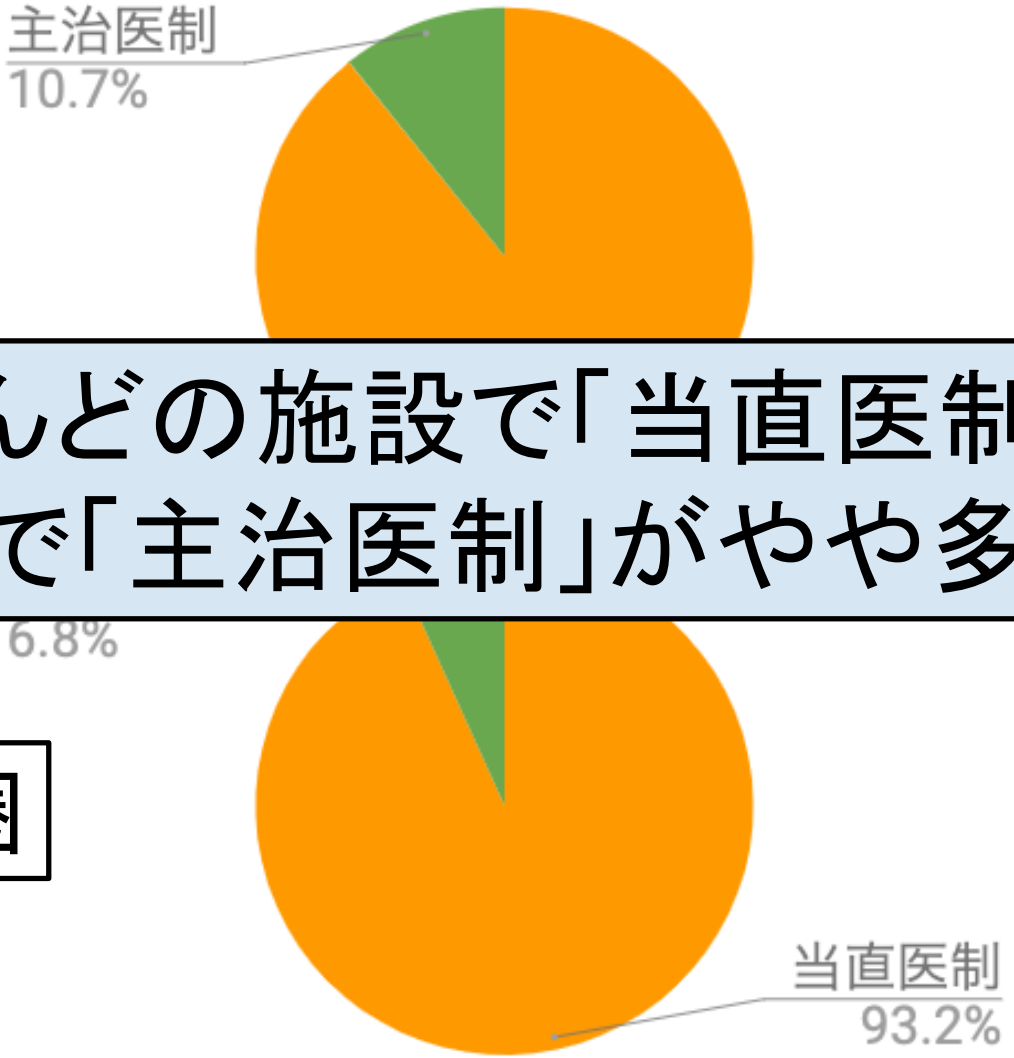
- 全国および各地域における「全体」と「自施設」に関する回答について以下の方法で**動向指数**を計算した。

  【（良くなっている＋少し良くなっている）ー（悪くなっている+少し悪くなっている】／全体の回答数


動向指数の変化
40%
30%
20%
10%
0%
-10%
-20%
-30%
-40%
-50%
全体
自施設
-21.3%
-30.7%
- 18.8%
- 31.4%
2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018

2.
勤務環境の現状調査（新規）

主治医制（原則、24時間担当医が患者対応）ですか？当直医制（夜間休日は当番医が対応）ですか？



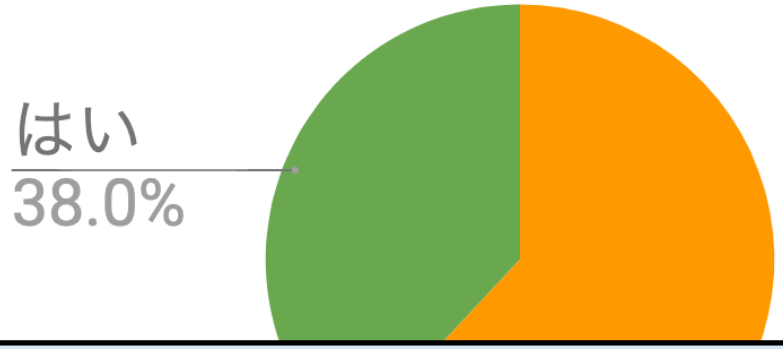
地方

・ほとんどの施設で「当直医制」
・地方で「主治医制」がやや多い

大都市圏

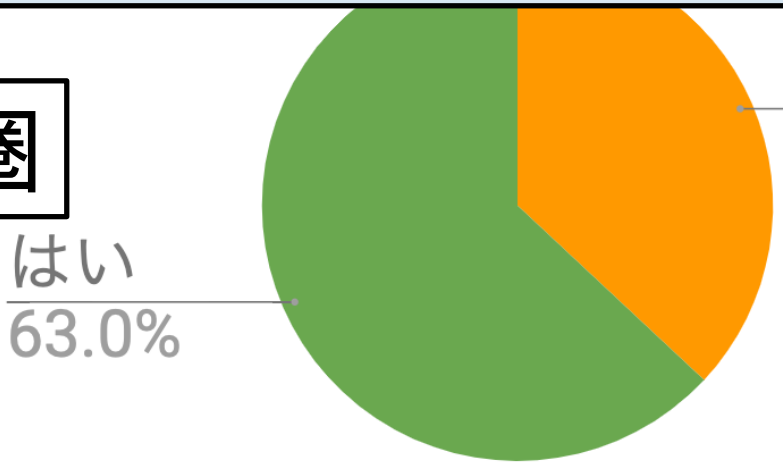
（17）医師のタイムカードなどによる勤怠管理システムの導入はされていますか？

地方



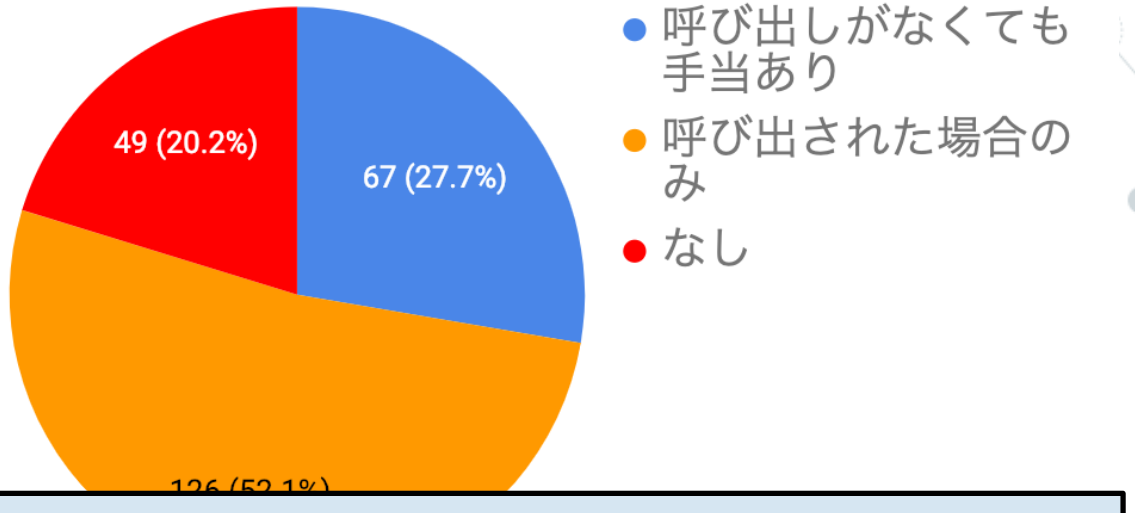
・大都市圏で約4割、地方で7割が勤怠管理システム未導入

大都市圏



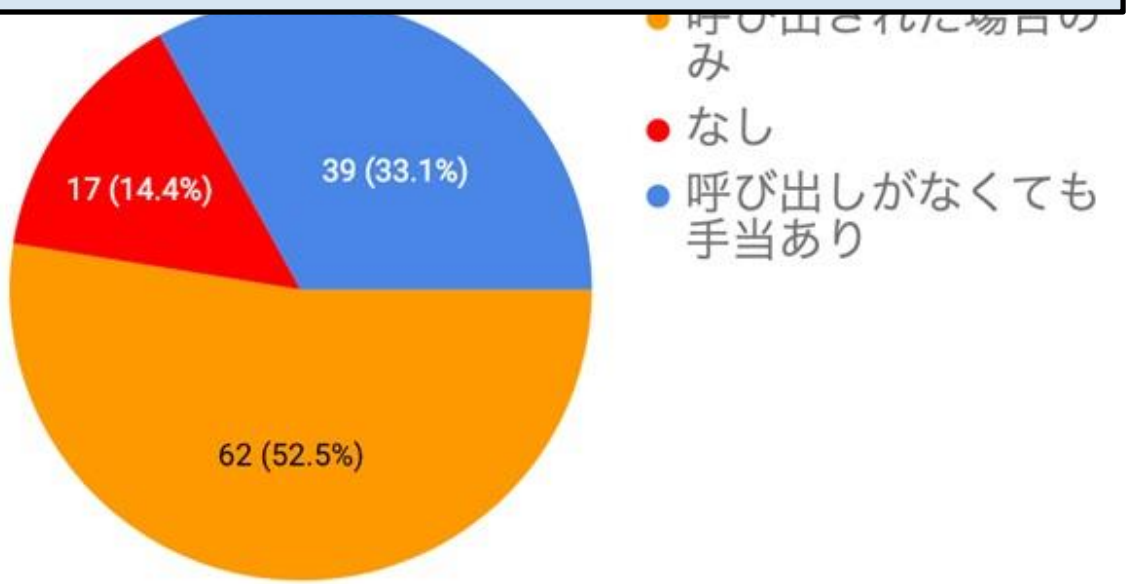
（19）オンコール手当はありますか？

地方

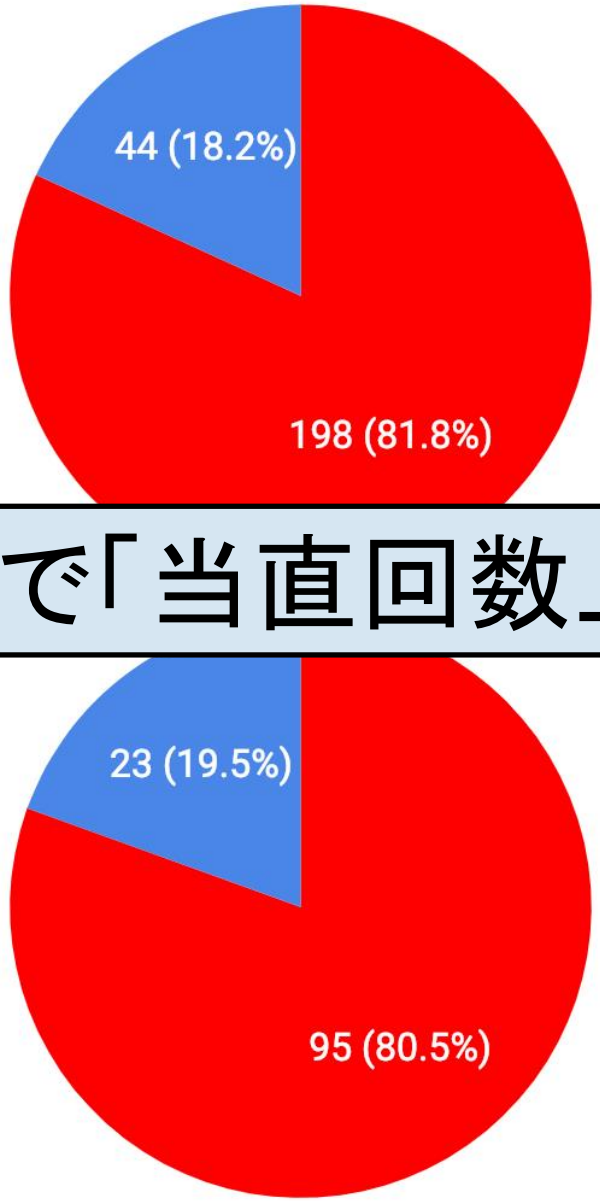


・2割弱で「オンコール手当なし」！

大都市圏



（24）当直回数の上限の設定はありますか

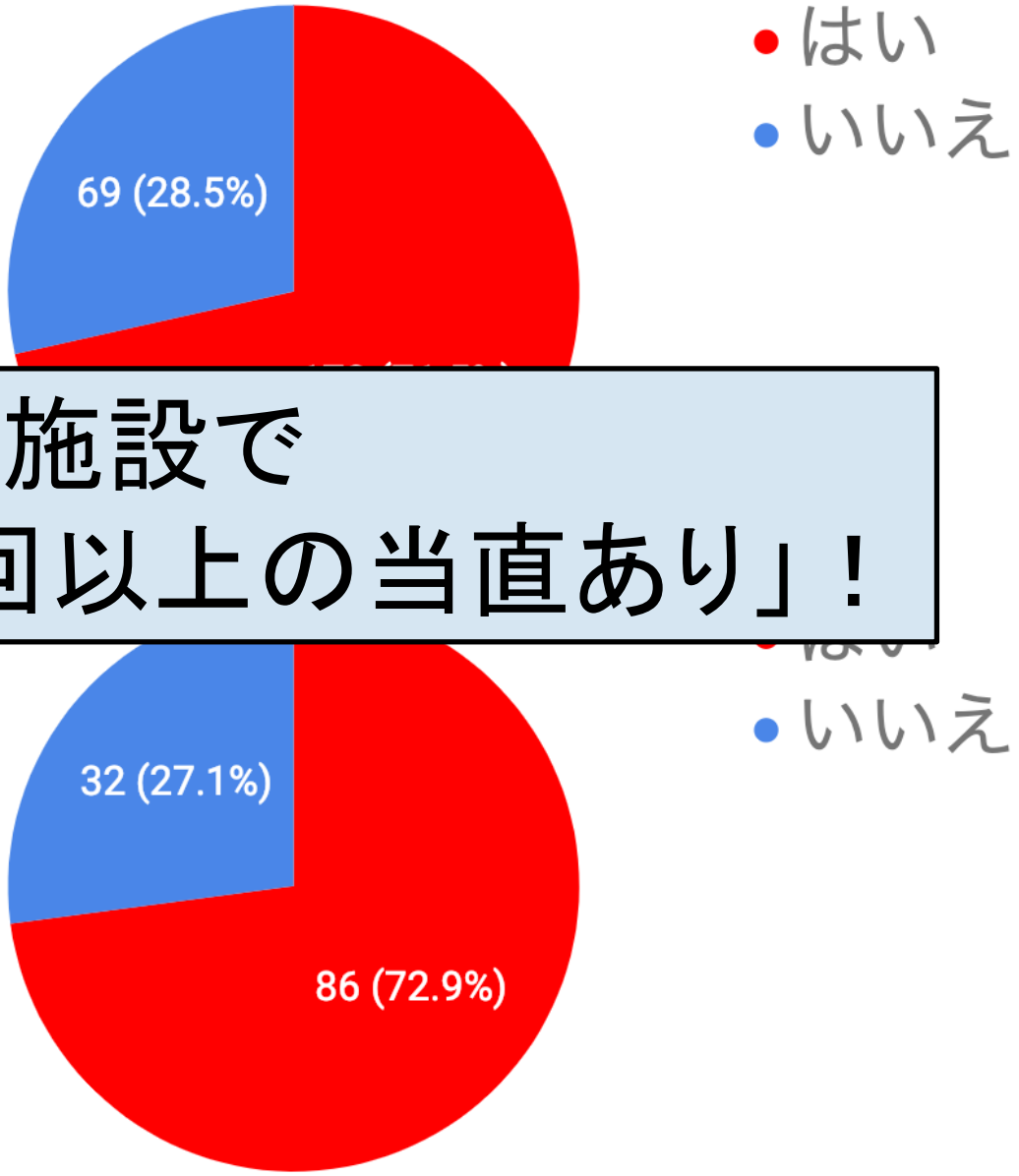


地方

大都市圏

・8割の施設で「当直回数上限なし」！

（25）当直回数が一人あたり週一回以上になっていることがありますか

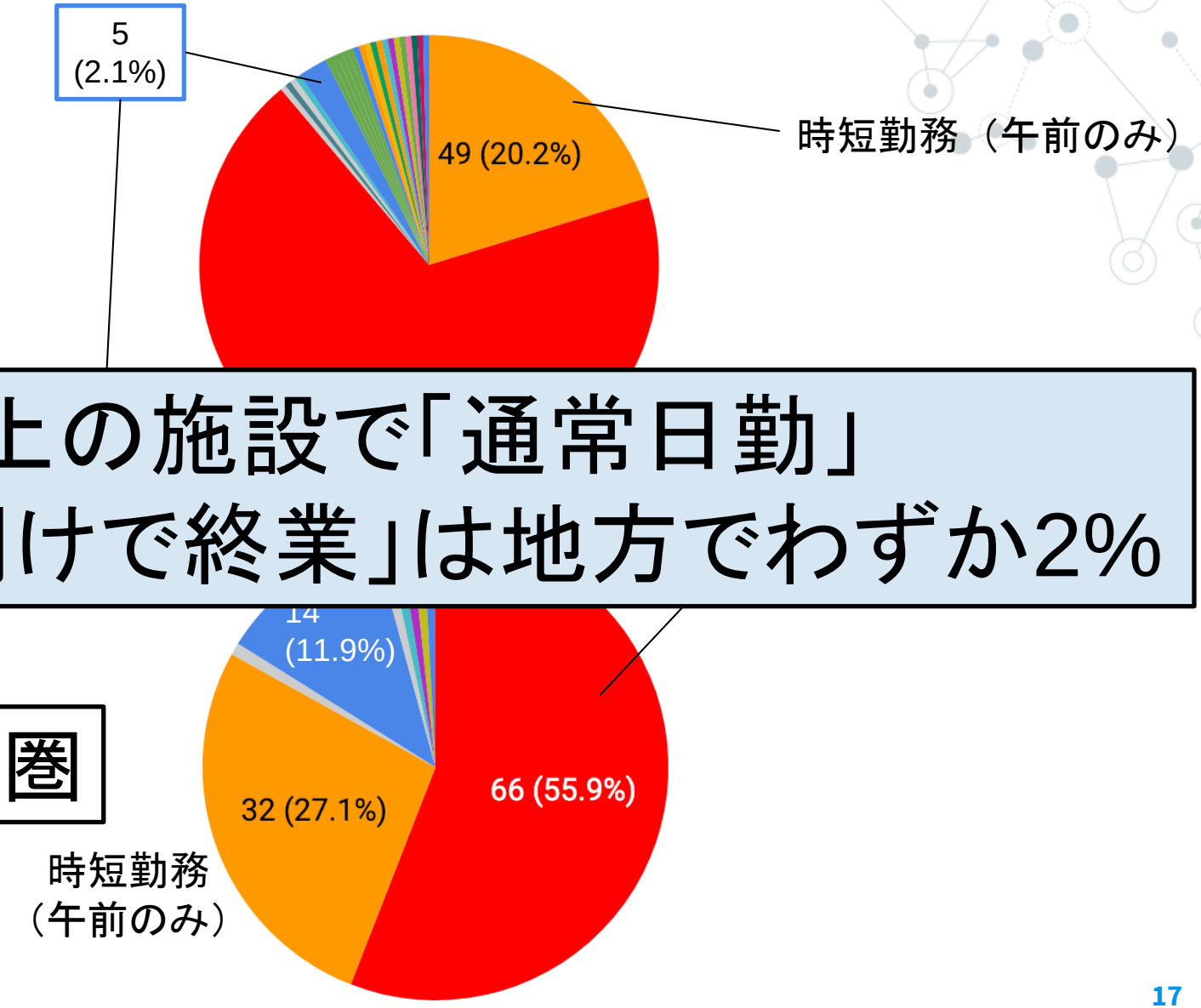


地方

大都市圏

・7割の施設で
「週一回以上の当直あり」！

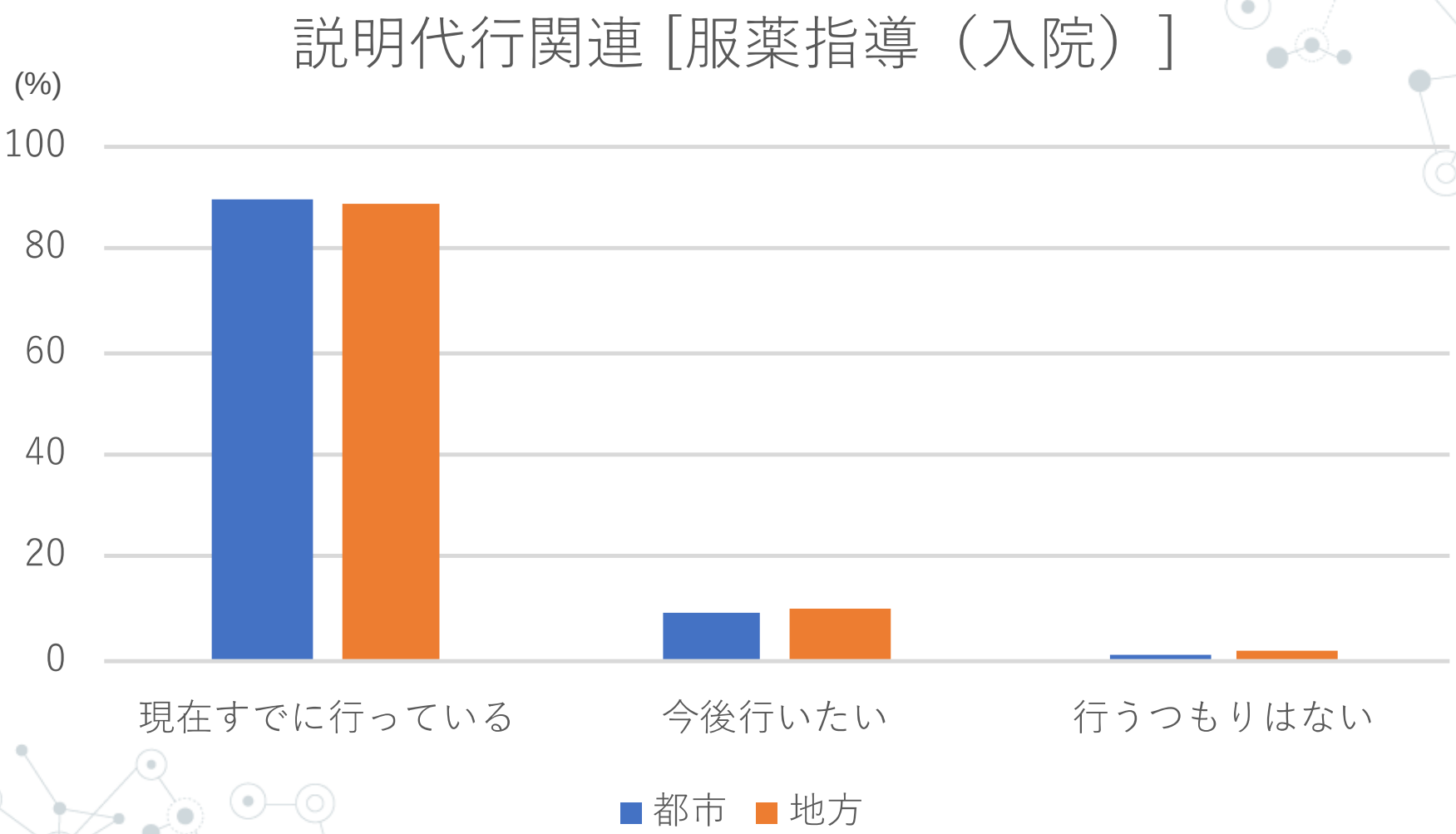
(26) 当直明けの業務形態は下記のうちいずれになりますか



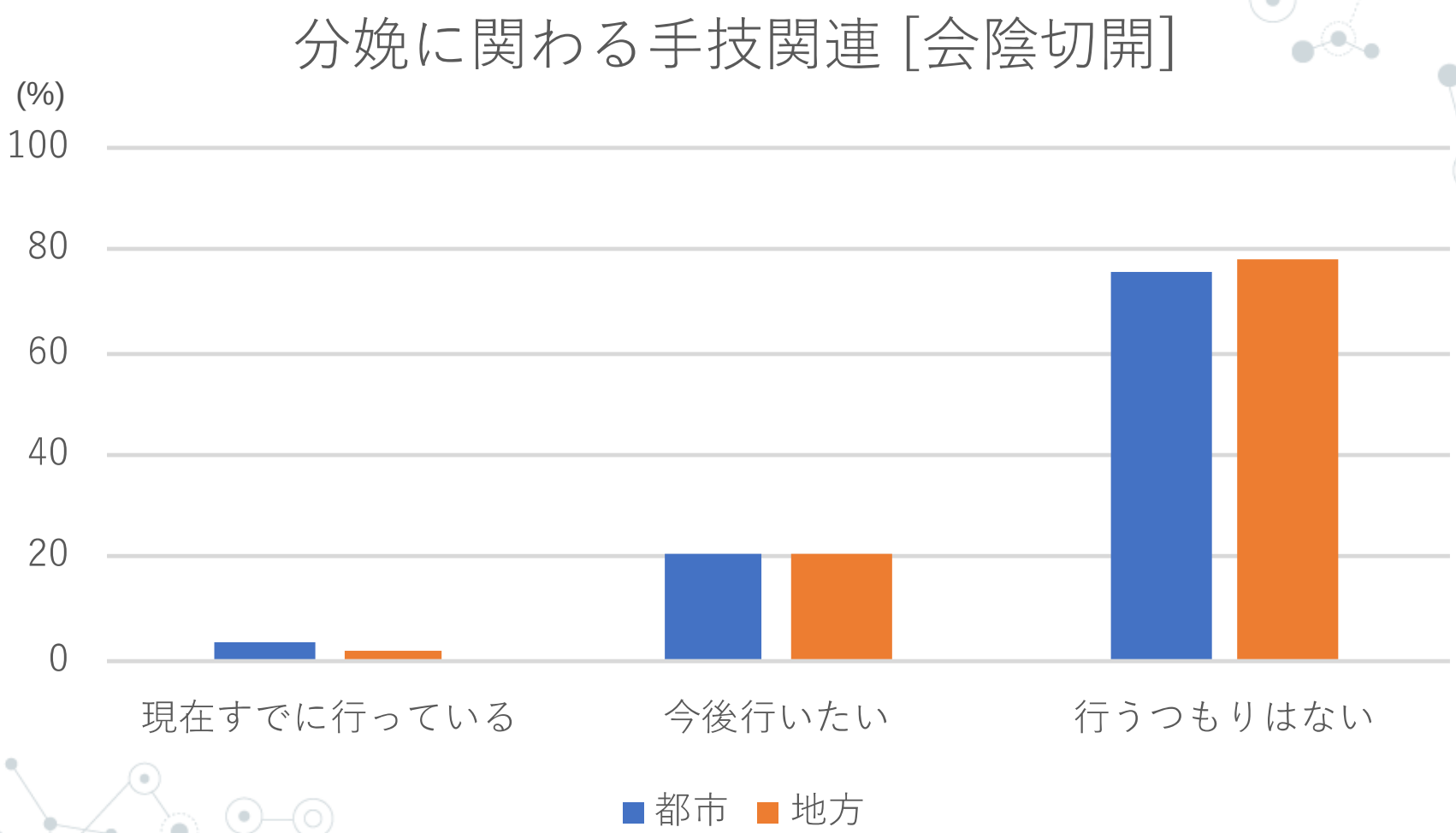
- 半数以上の施設で「通常日勤」
- 「当直明けで終業」は地方でわずか2%

3.
タスクシフト現状調査（新規）

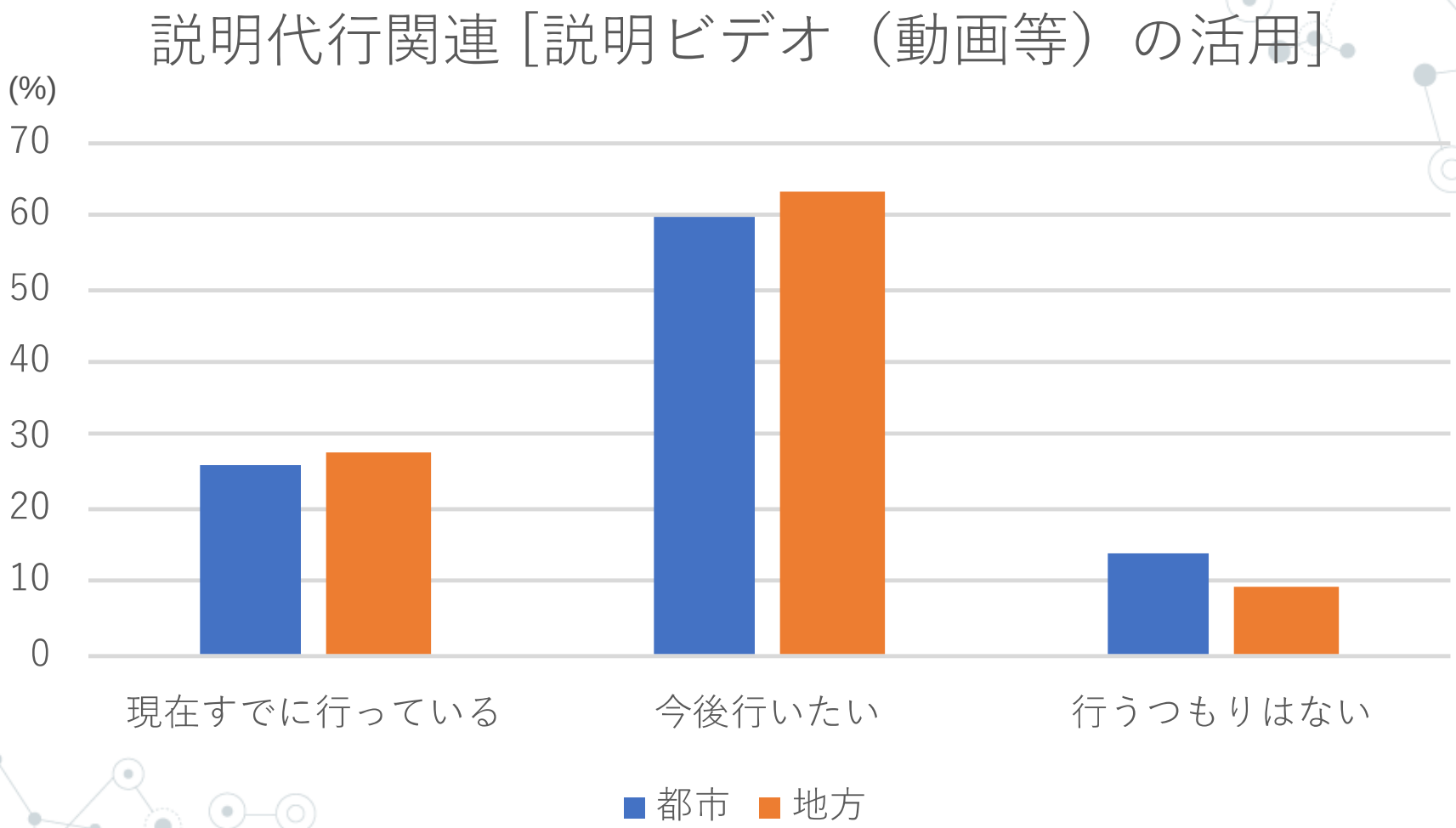
ほとんどの施設で実施されているタスク



ほとんどの施設でシフトをするつもりがないタスク



実施はまだ少ないがシフトに前向きなタスク



結果のまとめ

1.動向意識調査
- 自施設よりも全体としての悪化が懸念

2.勤務環境の現状調査
- 正確な勤怠管理が多くの施設で未導入
- 2割の施設で当直回数の上限なし
- 3割の施設で週に１回以上の当直
- 6-7割の施設で当直明けも通常日勤勤務

3.タスクシフト現状調査
- 項目ごとの現状を見える化

今後のプロセス

＜調査の継続＞
・見える化による意識変容と各施設での工夫
・経年変化の把握

＜最終報告＞
・分娩規模等での解析
・タスクシフトと勤務環境の関連

＜より詳細な調査＞
・個々人の勤務環境
・自己研鑽と業務

＜新たな知見＞
・Webベース調査の利便性
・見える化の意義